

UNHCR 出前授業

6年

18日（金）3・4時間目、国連の難民支援機関である UNHCR の天沼耕平さんより、出前授業をしていただきました。写真資料を見ながら、難民にないもの・あるものを考え、どのような支援が必要なのかについて考えるワークショップを行いました。また、教室にて「命のメジャー」を使って、栄養失調の子供の上腕のサイズと自分の上腕のサイズを比べてみました。今回、難民について知ることができたことで、子供たちは、これは遠い世界の問題ではないと感じたようです。

以下、子供たちの感想の一部です。

「将来、困っている人を助けられるようになりたい。」

「今私たちが自由にしている中でも、苦しんで戦争から逃れようとしている人がいると知った。」

「私たちでも、難民を助けられる手立てがたくさんあるということを知りました。」

「難民は私たちと同じ世界の人だと気付き、これから難民を助けるために募金活動をしていきたいと思いました。」

「今自分たちは幸せに安全に暮らせているけれど、苦しんでいる難民もいるから、『Wi-Fi 難民』『〇〇難民』などの言葉は簡単に口にできることではないな。」

